

黒澤明監督 名作特集

上映日

平成30年1月7日(日)
平成30年1月8日(月)

場所

益城町文化会館 ホール

入場料

一般500円/会員300円
(※一日あたりの料金です)

*就学前のお子様のご入場はご遠慮ください。

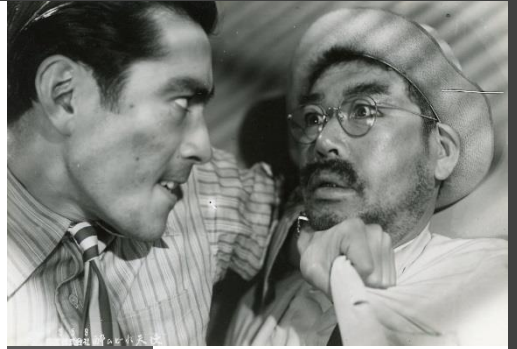
酔いどれ天使/98分

[1948年 東宝]

出演：志村喬/三船敏郎/山本礼三郎/木暮実千代/中北千枝子/千石規子 ほか

解説

戦時中、『姿三四郎』(1943)で鮮烈なデビューを果たした黒澤明監督は、戦後も『わが青春に悔いなし』(1946)や『素晴らしき日曜日』(1947)の成功で、日本映画の若きエース的存在となった。「キネマ旬報」ベストワンに輝いた黒澤の7作目にあたるこの作品は、闇市のヤクザと飲んだくれの貧乏医者との、不思議な友情と葛藤を描いたもので、強烈な個性を持つ若者とその観察者の設定や荒々しい映像表現の顕著さという点で、以後の黒澤映画のスタイルを決定づけたものと言える。前年にデビューしたばかりの三船敏郎が黒澤に初めて起用され、野生味あふれるその個性をいかんなく発揮し、以後の黒澤作品に欠かせぬ存在となったことは周知の通り。また、映像と音との対位法的表現(雑踏の中の<カッコウ・ワルツ>の使用やギター曲<人殺しの歌>など)を試みた黒澤にとって、この作品から参加した音楽家早坂文雄との出会いも幸運であった。



上映日時 1月7日(日) 13:30~

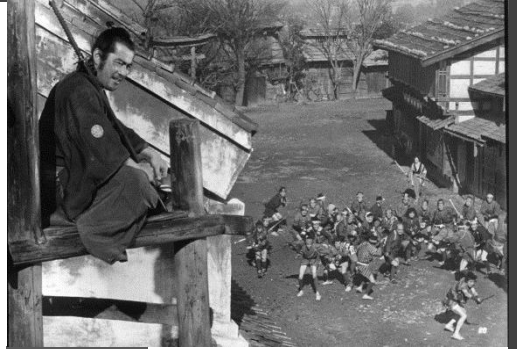
用心棒/110分

[1961年 東宝=黒沢プロダクション]

出演：三船敏郎/仲代達矢/司葉子/山田五十鈴/加東大介/志村喬/夏木陽介 ほか

解説

ダシール・ハメットのハードボイルド小説『血の収穫』を大胆に翻案、西部劇の手法を取り入れながら、三船敏郎演じる浪人の痛快無比な姿を描いた黒澤明による大ヒット時代劇。舞台は上州、かつて綱市で栄えた宿場町も、今や跡目を巡る清兵衛一家と丑寅一家との抗争で、無法地帯と化していた。見回りの役人も、賭片手に見て見ぬふりの始末。そんな宿場に流れ着いた凄腕の浪人、自称・桑畑三十郎は、居酒屋の親父に一部始終を聞かされ、両家の親分に自ら用心棒として売り込みながら、彼らを手玉に取っていく。喧騒のなか、狂犬のような丑寅の弟・卯之助が町に戻ってきた…。撮影は、東宝撮影所横の農地に巨大なオープンセットを建て、『羅生門』(1950年)以来の黒澤組となった宮川一夫カメラマンが、複数のカメラと望遠レンズを駆使し、シネマスコープの画面を意識した見事なフレーミングで、比類のない娯楽活劇に仕立て上げた。



上映日時 1月7日(日) 15:30~

羅生門/88分

[1950年 大映(京都)]

出演：三船敏郎/京マチ子/志村喬/森雅之/千秋実/上田吉二郎/本間文子/加東大介 ほか

解説

黒澤は本作について次のように述懐している。「この作品の根本は、要するに、無声映画に帰ってみようと思ったことですね。」「トーカーになって失われた映画の美しさをもう一度見つけようという気持ちだった。」「映画ももう一度単純化しなければならぬじゃないか、というのがあの試みだった」。森の中で起きた殺人事件をめぐって、8人だけの登場人物で演じられる不条理劇。芥川龍之介の「藪の中」を、脚本家を志望していた橋本忍が脚色、黒澤の助言で同じ作家の「羅生門」が加えられた。絶対真理の不在と人間不信の主題は戦後間もない欧米で高く評価され、翌年のヴェネチア国際映画祭でグランプリ、そして米・アカデミー最優秀外国語映画賞を受賞した。黒澤の映画は、日本映画の芸術水準の高さを海外に知らしめただけでなく、わが国の国際理解に大きく貢献した。



上映日時 1月8日(月) 10:30~

わが青春に悔いなし/110分

[1946年 東宝]

出演：原節子/藤田進/大河内伝次郎/杉村春子/三好栄子/河野秋武/高堂国典/志村喬 ほか

解説

黒澤明監督の戦後第一作。モデルとなったのは京都大学の滝川事件(1933年)とソルゲ事件(1941年)だが、後年の男性中心の黒澤作品に比べるとやや異質な感じを与えるのは、女性が主人公である点であろう。ファシズムの圧力に屈し野に下った大学教授の娘で、戦時下のまざままな苦境にも屈することなく生きていく堂々たるヒロインとして、原節子が後の小津安二郎作品とは違った魅力を発揮している。脚本の久坂栄二郎はプロレタリア演劇の中心的存在として活躍した劇作家で、彼と組んだところに当時の黒澤監督の姿勢が表れている。ともあれ、戦後の「新しい時代」の高揚の中で制作されたことがよくわかる作品である。本作は、1946年3月から始まった東宝争議の第二次争議中に、日活系の劇場を使って封切られた。



上映日時 1月8日(月) 12:30~